



【研究主題】

自己指導能力を身につけた児童生徒の育成
～互いを認め合い、よりよい生活を創り出す積み重ねを通して～

【主な研究の内容】

自己指導能力の獲得を支える4つの視点「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の構成」を踏まえつつ、児童生徒が自分たちの課題に対して、協働し、折り合いをつけながら、よりよい生活を創り出そうとする経験を数多く積み重ねる効果的な働きかけについて、研究を進め、実践を行う。

【実践の柱①】

安心な学級づくり

すべての児童生徒が安心して過ごせる学級を作るためのアプローチ

困りごとの共有

一人で抱え込まず、クラス全体で困りごとを解決するための手立てを実践し、支え合う体制を作ります

児童生徒が主役となる授業

児童生徒の自己決定の場を多く提供する授業をデザインします

肯定的な支援(ほめる・認める・励ます)

対話を通じて個々のよさを認め合い、一人一人が大切にされる安全安心な風土を醸成します

【実践の柱②】

よりよい生活づくり

集団の中で経験を積み重ね、自ら生活を構築していく力を育む

合意形成を目指した話し合い活動

自分の意見をもちつつ仲間の意見を受け止めて、折り合いをつけながら納得解を見つける話し合いを工夫します

主体的な係・委員会活動

「やらされる活動」から「自分たちで創る活動」へ児童生徒の主体的な取組を支援します

行事の前後の活動の充実

行事を通じた自己・他己理解や、異年齢の児童生徒が協力して活動できるよう、縦割り活動、部活動等を工夫します

【土台となる4つの視点】意識して働きかけるポイント



自己存在感の感受



共感的な人間関係



自己決定の場の提供



安全安心な風土の醸成